

6月の花といえば、やはり紫陽花が真っ先に思い浮かびます。紫陽花の語源は「あづさい」が変化したものだと言われています。「あづ」は「あつ」（集）、「さい」は「さあい」（真藍）青い花が集まって咲く様子を表しています。雨で傷んでしまう花が多い中、紫陽花は雨に負けず、ますます美しい色合いになることから、苦難に負けず平和が続くようにと万葉の昔から歌にも詠まれてきました。

あぢさゐの 八重咲くごとく 八つ代にも
いませ我が背子 みつつ偲はむ
万葉集・巻二十 橘諸兄（たちばなのもろえ）



読書感想文を書いてみよう



読書感想文は、本を読んで自分の思いや心の動きを書くものです。書くことによって考えを深め、著者が言いたかったことに思いをめぐらせたり、わからなかったことを解決したりすることができます。読書感想文は「考える読書」ともいわれているのです。

また、読書感想文は自分自身の記録となり、読み返すことによって、いつでも「感動した自分」に出会うことができます。



休館の対応について

コロナ対策として、図書室はクラスごとに利用できる曜日が決められています。

自分のクラスの曜日が休館だった場合は次の日に利用してください。連休の場合は、新しく利用できる日を設定し、お知らせします。

どう書けばいいの？



まず、思い切り楽しめたり、自分を見つめなおしたり、新しいことを教えられたり、自分の心を突き動かしたりするような本を見つけましょう。

題名は自分が一番感動したことや、最も伝えたいことの中心となる言葉を考えてつけるといいでしょう。魅力的な題名は人を引きつける力があります。

本を読んで自分がどこに感動したのか、なぜ感動したのか考え、もう一度本を読んでみます。2回目は、自分の生き方や経験を本の世界と照らし合わせながら読むと、いろいろなことが見えてきます。本を読んだら、感じたこと、思ったこと、連想したことをすべてメモしておきましょう。そしてその順番を入れ替えたり、内容を補ったりしながら自分の心の動きに合わせていきます。また、それがうまく人に伝わるかを考えましょう。一度、自分以外の人に読んでもらうことも、おすすめします。これを繰り返すうちに、何をどう書けばいいのかが、自分が一番伝えたいことは何なのかが、はっきりしていきます。

青少年読書感想文全国コンクールHPより



裏面に「青少年読書感想文コンクール」の課題図書を紹介しています。読んで、感想を書いてみましょう。



第67回 青少年読書感想文コンクール



中学校の部

「with you」 濱野 京子／作
母親の介護に携わる「ヤングケアラー」の少女・朱音に恋をした中学生の悠斗の物語を通して、「誰かを大切に思うこと」を描く。



「アーニャは、きっと来る」
マイケル・モーパーゴ／作 佐藤見果夢／訳
第二次世界大戦中のフランスの村。羊飼いの少年ジョーは、ユダヤ人の子どもの亡命を助けることになって……。命の尊さをうたいあげる物語。

「牧野富太郎：日本植物学の父」
清水洋美／文 里美和彦／絵
学歴はなくても、誰にも負けない情熱がある！
日本全国の野山を駆け巡り、数多くの新種を発見・命名した牧野富太郎の人生を描きます。



高等学校の部

中学生の課題図書ではありませんが、ぜひ、読んでみましょう。

「水を縫う」 寺地はるな／著
清々しい家族小説

「兄の名は、ジェシカ」 ジョン・ボイン／著 原田勝／訳
LGBTの若者の思いをさわやかに描いた物語。

「科学者になりたい君へ」 佐藤勝彦／著
研究職を目指す人へ。



すべて
図書室にあります！

